

附属動物医療センター 自己点検・評価

1. 附属動物医療センター小史（略歴）

附属動物医療センターの前身である附属家畜病院は、「産業動物医療に従事する臨床獣医師の養成」を目的として1964（昭和39）年に本学の獣医学教育が始まったことを受け、1968（昭和43）年に開設されました。

当初より、学生の臨床教育および研究を進める拠点として位置づけられ、開設以来、獣医学、酪農学および環境学を研究対象とする教員や広大なキャンパス内に飼育される産業動物を含めた教育資材を有効に利用し、先端的な産業動物関連の諸科学を学ぶことで、酪農家を支援する実践的な獣医師の養成を図ってきました。

その後、2004（平成16）年に現在の場所に移転・新設され、野生動物医学センター、動物処理棟（病理解剖室、焼却処理）、環境汚染物質・感染病原体分析監視センターが併設されました。2016（平成28）年には、「附属動物医療センター」に名称が変更され、参加型臨床実習のために臨床獣医学教育研究棟を増築、本館を改修した。

当時掲げられた「建設の理念」は次のとおり。

- (1) 畜産王国北海道の生産動物医療、教育、研究の拠点を創る。畜産物の生産と安全を守る獣医師養成。
- (2) 北海道での有数の伴侶動物医療、教育、研究の拠点を創る。動物を介した心の健康問題に寄与する活動。
- (3) 野生動物医学をとおして環境問題研究の拠点を創る。
- (4) 臨床と研究および高度教育の連携の拠点となるセンターラボの創出。環境汚染物質・感染病原体分析監視センターの設置であり、これを礎として現在に至っている。

2 自己点検・評価

本学附属動物医療センターが作成する自己点検・評価報告書の妥当性と信頼性を検証するために、学外有識者で構成する外部評価委員会を設置し、自己点検・評価に対する外部評価による検証、評価に基づき、今後の教育研究、業務運営、諸活動の質的向上、改善及び一層の充実に役立てることを目的とする。

評価は、自己点検・評価資料の項目ごとに、設定された基本的な観点について、以下の4段階で評価する。併せて、総括的な評価（総評）を行う。

評価基準：4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）

【1】評価項目

項目1 運営方針

評 価 項 目	自己評価
1-1 学園の理念に合致した運営方針となっているか	④・3・2・1

1-1 学園の理念に合致した運営方針となっているか

自己評価 4（適切）

酪農学園大学附属動物医療センター規程第1条(目的)では、「獣医学及び動物看護学の臨床教育及び学術研究の施設として、動物の診療を行うとともに、地域社会に貢献することを目的とする」とあり、大学学則第1条に示される建学の精神に基づく獣医学群両学類の目的を具現化する最新の臨床教育環境を提供している。

本センターで展開する各種実習を通じて獣医師及び動物看護師の人材養成を行っていることは、学園の理念に基づく獣医学類及び獣医保健看護学類のポリシーに合致する。

酪農学園大学附属動物医療センター（Animal Medical Center、以下AMCという。）は、建学の精神および教育理念に基づく獣医療を社会に向け幅広く展開するとともに、実践的な教育と研究を推進することを役割とする。

AMC運営の柱の一つである獣医療は、伴侶動物領域においては、高度医療施設ならびに機器を備えた難治性疾患治療など二次診療の提供、生産動物領域では一次診療も含む往診体制ならびに入院治療であり、アニマル・ウェルフェアを考慮した獣医療を提供することにより、動物の救命ならびに畜産の発展を通じた社会貢献を目指す。

もう一つの柱の教育・研究については、北海道の豊富な畜産資源ならびに大都市近郊の数多い伴侶動物を活かした専門的な実学教育と研究であり、病気の診断と治療のみならず、食の安全・安心ならびに動物を介した心の健康保持にも寄与できる人材の育成を目指す。このことは、獣医学類のほか、獣医保健看護学類学生にも共通するほか、獣医師および動物看護師の卒後教育にも活用する。

<参考>

◆酪農学園大学学則

第1条（目的及び名称）

3 獣医学群は酪農学園創立の基本精神に基づき、獣医学、獣医保健看護学とその関連科学の総合的な教育・研究により、生命・自然を尊ぶ豊かな人間性を育み、人類と動物の福祉及び動物・人・環境の調和と共存に具体的に貢献するための学群であり、専門知識・技術及び総合的な判断力を有する人材を養成し、

国際的視野に立って動物と人の健康保持と食料の安定供給及び環境保全に寄与することを目的とする。

- (1) 獣医学類は、獣医学及びその関連分野における高度な知識と技術を修得し、実践的な産業動物、伴侶動物、公衆衛生関連獣医師を育成し、わが国の獣医療や食の安全及び動物の福祉ならびに生命科学における先端的研究を推進できる人材を養成する。
- (2) 獣医保健看護学類は、獣医学に関する基礎知識と動物看護学に関する専門知識を修得させ、動物栄養、動物行動及び動物物理学療法に関する高度な教育を行い、幅広い獣医保健看護領域の業務を担える人材を養成する。

◆獣医学類卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

獣医学類（以下、「本学類」という）では、1～2年次において「基盤教育」と「専門基礎教育」および「専門教育」で、動物の体の構造や機能、動物に関する倫理や福祉、また、実践的な英語や統計学を学び、3～4年次では、伴侶・産業動物の臨床や食の安全等を学習します。4年次からは「専修教育」にて研究室に所属して専門的研究を行い、5年次には少人数での参加型実習を行い、最終学年において、研究発表並びに最終的には獣医師国家試験受験に臨みます。

本学類では、以下の能力を身につけた学生に学士（獣医学）の学位を授与します。

1. 人と動物の福祉及び自然環境との調和と持続的な利用に貢献することのできる獣医師として社会で活躍するための、生命を尊ぶ豊かな人間性を育みます。
2. 獣医学に関する高度な専門知識・技術及び総合的な判断力を習得することができます。
3. 国際的なコミュニケーション能力を身につけ、国際的視野に立ち、主体的学びを通じて、SDGsで掲げられた人と動物の健康保持、環境保全ならびに食料の安定供給に寄与する質の高い実践能力を身につけることができます。
4. 獣医学のみならず、医学、農学、生物学などの他、動物愛護・福祉など、様々な専門領域にまたがる知識や技能を実地に活用することができます。

◆獣医保健看護学類卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

獣医保健看護学類（以下、「本学類」という）では、1～2年次において「基盤教育」と「専門基礎教育」で基礎学力および獣医学における基礎知識を学び、3年次から始まる「専門教育」では、動物看護師として必要な専門知識と技術を学内外の実習等で身につけます。学類の到達目標に向けて学びを深め、最終学年において、研究発表並びに愛玩動物看護師国家試験に臨みます。

本学類では、以下の能力を身につけた学生に「学士（獣医保健看護学）」の学位を授与します。

1. 動物看護師として、高度な知識とチーム獣医療を担う高い実践能力を身に付けています。
2. 動物看護師として、高いコミュニケーション能力を有し、自分の考えや判断を正しく伝えることができます。
3. 動物看護師として、ヒトと動物そして環境との関係における総合的な健全性『One Health』に常に深い関心を持っています。
4. 動物看護師として、伴侶動物のみならず産業動物や野生動物、展示動物の生命を尊重することができます。
5. 動物看護師として、動物の福祉向上に努めることができます。
6. 動物看護師として、幅広い専門知識と技術を積極的に学習し、それを取り入れ、活かす努力を惜しまず取り組みます。

項目2 運営組織

評 価 内 容	自己評価
2-1 センターの運営のために適切な組織体制となっているか	④・3・2・1
2-2 センターの運営のために適切な人員体制となっているか	4・3・②・1

2-1 センターの運営のために適切な組織体制となっているか

自己評価 4（適切）

酪農学園大学附属動物医療センター規程第6条で定める動物医療センター運営委員会を年間数回開催し、診療業務及び動物医療センター運営に関する事項等について協議している。

組織体制

【資料1-1：酪農学園大学附属動物医療センター組織図

1-2：酪農学園大学附属動物医療センター運営委員会規程

1-3：2021年度動物医療センター会議構成員】

センター長・副センター長の下、動物医療センター運営委員会を設置し、運営している。センター長は、必要に応じてセンター全担当教員によるセンター会議を招集し、医療センターの運営に関する事項について協議し、運営に関わる全教員からの意見を聴取する。

(1) 診療体制（4部門）

- ・生産動物医療部門（内科、外科、繁殖科、群管理科）
- ・伴侶動物医療部門（内科、外科、腫瘍科、循環器科、神経科、眼科、リハビリテーション科）
- ・診療支援部門（麻酔科、集中治療科、画像診断科、臨床検査科、病理検査科、薬剤部、血液製剤部）
- ・動物看護部門

(2) 管理部門

- ・事務課

実務の詳細については、伴侶・生産の各分野会議・センター長打合せ・スタッフミーティング等において決定し、滞りなく運営している。

2-2 センターの運営のために適切な人員体制となっているか。

自己評価 2 (やや不適切)

本学の特徴である眼科の教員不在や兼務の診療科がある。また、近年診療業務をサポートする病院獣医師及び動物看護師の応募者が減少しており、適正な人員の確保が課題となっている。

人員体制

【資料2：2021年度附属動物医療センター診療体制 2021年9月現在】

(1) 生産動物医療部門 (12名)

- ・内科：教授1、准教授1、助教1、病院獣医師1
- ・外科：教授1、助教1、嘱託助手1
- ・繁殖科：教授2、助教1
- ・群管理科：教授1、准教授1

(2) 伴侶動物医療部門 (17名)

- ・内科：准教授2、助教1、嘱託助手2、病院獣医師3
- ・外科：准教授1
- ・腫瘍科：教授1、助教1、病院獣医師1
- ・循環器科：(外科と兼務)
- ・神経科：教授1、嘱託助手1、病院獣医師1
- ・眼科：不在
- ・リハビリテーション科：准教授1名
- ・病院獣医師(ローテーション) 1名

(3) 診療支援部門 (31名)

- ・麻酔科：教授1、准教授2、助教1、嘱託助手2
- ・集中治療科：※麻酔科兼務
- ・画像診断科：教授1、講師2、助教1、嘱託技師1、病院獣医師1
- ・臨床検査科：教授1、(富士フイルムヘルスケアシステムズ2)
- ・病理検査科：教授1、准教授1、講師1
- ・薬剤部：薬剤師2
- ・血液製剤部：教授1

(4) 動物看護部 (10名)

- ・伴侶動物医療部門7
- ・生産動物医療部門3

(5) 事務部 (7名)

- ・事務課：2
- ・伴侶動物医療部門受付：4
- ・生産動物医療部門受付：1

項目3 運営内容

評 価 内 容	自己評価
3-1 センターの運営のために適切な施設規模か	4・③・2・1
3-2 施設管理は適切に行われているか	④・3・2・1
3-3 診療頭数は適切か	4・③・2・1
3-4 診療を行うために適切な医療機器が揃っているか、適切に保守や更新を行っているか	4・③・2・1
3-5 医薬品の管理は適切に行われているか	④・3・2・1

3-1 センターの運営のために適切な施設規模か

自己評価 3（ほぼ適切）

動物医療センター本館には、8つの診察室を有し、処置室では同数の処置台を配置しており、診療及び実習の実施には十分な施設規模となっている。多目的トイレの設置や廊下・階段への手すりの設置など身障者対応も行っている。2016年臨床獣医学教育研究等の増築により、獣医学類5年生（約140名）が対象のクリニカルローテーションやvetOSCE試験対応が可能となった。一方で、教員室・講義室・会議室・書庫・消耗品倉庫が不足している。

施設規模

【資料3 附属動物医療センターリーフレット】

総面積10,830㎡

(1) 動物医療センター本館（2004年新設）

伴侶動物医療部門：診察室(8室)、処置室、放射線治療室、隔離入院室、画像読影室、手術室(4室)、入院室、研修医室、宿直室、会議室、サロン

生産動物医療部門：牛診察室、牛手術室、馬麻酔導入覚醒室、馬手術室、簡易検査室

(2) 獣医学教育研究棟（2016年新設）

伴侶動物医療部門：超音波検査室、内視鏡室、臨床検査室、CT室、MRI検査室、X線検査室、画像手術室、リハビリテーション室、生体試料分析室、検査室、大学院生室、教員室、VetOSCE室、カンファレンスルーム

(3) その他

生産動物医療部門：入院棟、感染動物管理棟、実習棟

(4) 施設の稼働状況

①伴侶動物医療部門：2020年度の状況

診察室、処置室、検査室等は、診療日年間232日（365日-休診日133）全て稼働している。

入院室は、お盆期間と年末以外、年間347日（365-18）稼働。

手術室は、診療日年間232日のうちの月曜日～木曜日は稼働している。金曜日48日を除くと184日稼働。

②生産動物医療部門：2020年度の状況

牛入院室は、入院件数が1,233件、365日の診療で常に稼働している。

③医療機器の稼働状況

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
レントゲン	件数	3,064	3,734	3,774	3,459	2,560
	前年比	90.8%	121.9%	101.1%	91.7%	74.0%
CT	件数	367	509	468	520	302
	前年比	104.3%	138.7%	91.9%	111.1%	58.1%
MRI	件数	296	350	302	369	309
	前年比	143.7%	118.2%	86.3%	122.2%	83.7%
超音波	件数	999	1,507	1,338	1,219	916
	前年比	106.1%	150.9%	88.8%	91.1%	75.1%

3-2 施設管理は適切に行われているか

自己評価 4（適切）

施設課・外部委託業者と連携し適切に管理している。

建物の保守や点検（消防設備、エレベーター、自動ドア等の日常的な点検整備）については、施設課で定期的に実施している。

清掃には、業務委託（幸和産業等）により、日常清掃と年に一度の特別清掃を行い、牛舎を含む建物内外の清掃・管理を行っている。

また、動物医療センター本館1階の管理室には、休日・夜間の人の出入りや防犯のため、24時間幸和産業の管理人を配置している。

各所にカメラを設置し、防犯対策及び学生教職員の安全を事務室内でモニタ監視することが可能となっている。

停電時には非常用電源により、最低限の医療機器やパソコンの稼働が可能になっている。

センター内の各所に手指消毒液や体温計を設置し、新型コロナウイルス感染対策を徹底している。

3-3 診療頭数は適切か

自己評価 3 (ほぼ適切)

シラバスに基づく学生の実習内容を担保する十分な診療件数を確保できている。実習の充実については、毎年度実施している授業アンケートで学習の状況及び評価を確認している。

診療頭数

【資料4 附属動物医療センター診療件数（2016年度～2020年度）】

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
伴侶動物医療部門	10,402	13,292	13,284	12,288	9,538
生産動物医療部門	18,744	17,768	12,716	14,684	13,016 (44,640)
計	29,146	31,060	26,000	26,972	22,554 (54,178)

※生産動物の検査数について、2019年度まで検査数の一部を農場数でカウントしていたが、2020年度からは検体数でカウントしている。資料4（2016～2020年度の診療件数）については、経年比較のため、2020年度の検査数を2019年度までのカウント方法で算出した件数と2020年度からの検体数でカウントした件数（カッコ内）を併記した。あわせて、資料に手術件数と診療件数における割合を記載した。

（検体数でカウントした場合：生産 44,640件、 合計 54,178件）

3-4 診療を行うために適切な医療機器が揃っているか、適切に保守や更新を行っているか

自己評価 3 (ほぼ適切)

診療に必要な医療機器は揃っているが、耐用年数を経過している機器または今年度耐用年数を迎える機器があわせて約6割に達しており、今後の収支バランスを勘案した機器の更新計画を策定中である。

設置している主な医療機器

【資料5 附属動物医療センター教育研究用機器備品台帳】

現状、伴侶・生産部門ともに診療・手術・往診などはスムーズに行えていることから、診療を行うために適切な医療機器が揃っているといえる。また、MRIやCT、X線撮影装置などの精密・高額機器は専門業者が定期的に保守を行っている。その他の医療機器については、獣医師及び動物看護師が中心となり適切な管理を行っている。

AMCの資産数（取得価額が10万円以上）は、基準日とした2021年度末時点で308件となっている。この中で耐用年数を超過した資産数は159件（51.6%）、基準日時点で耐用年数に達した資産数は33件（10.7%）、2024年度までの3年間で耐用年数に達する資産数は42件（13.6%）であることから、2024年度末では234件（75.9%）の資産が耐用年数を経過する。

3-5 医薬品の管理は適切に行われているか

自己評価 4 (適切)

医薬品は、薬剤師資格を有する専任職員2名が日常的な在庫確認・発注、年度末の棚卸を実施し、法令で取扱いが規制される医薬品については専用の保管庫で厳重に管理されている。

薬剤部に薬剤師資格を有した専任職員2名を配置し、センター長の下で医薬品の管理を行っている。医薬品の在庫確認と発注は、薬剤部が毎日行っており、毎年度末には棚卸を実施している。麻薬は専用の金庫（鍵付き、床面固定）、毒薬・劇薬・向精神薬は鍵付きの金庫・引き出しに保管し、厳重な管理を行っている。

専用の金庫を設置して劇薬・向精神薬・毒薬・麻薬の管理を徹底している。

項目4 運営収支

評価内容	自己評価
4-1 予算管理・執行は適切に行われているか	④・3・2・1
4-2 収支の状況は適切か	4・③・2・1

4-1 予算管理・執行は適切に行われているか

自己評価 4（適切）

学園の規則に従い予算管理及び執行を行っている。

予算は、毎年度の事業計画に基づき、診療収入、それに基づく医薬品や消耗品の算定、人員配置計画に基づく人件費、機器の保守料や修繕費、新規購入機器について、センター長、副センター長、事務課長で予算原案を作成、理事会の承認により決定する。

予算の執行については学園の会計基準に従って適切に処理している。機器の修理等、緊急的な対応が必要な予算外の支出については、学長決裁を受け執行する。

診療業務で使用する物品については、伴侶・生産両部門とも動物看護師が在庫管理を行い、診療状況に応じて発注数を決定し、それに基づき事務課が発注を行っている。

医薬品の在庫管理および発注は、薬剤部が行っている。

4-2 収支の状況は適切か

自己評価 3（ほぼ適切）

過去5年のうち3年が、減価償却費を除き黒字となっている。

収支の状況

【資料6-1 附属動物医療センター事業活動収支内訳表（2015～2020年度）

6-2 監査所見

6-3 生産動物診療料金 伴侶動物診療料金】

2021年5月に実施した監査の所見において、「（前略）教育研究施設であるから赤字が許容されるという経営環境ではないと考えます。当面、赤字額を減価償却費の範囲内に抑えることを目標に運営してください。」と付言されている。このことは、減価償却費を除いた経常収支差額（以下「収支差額」という。）を“0”あるいは“プラス”にする運営が求められている。

このことを踏まえ、2016～2020年度までの過去5年度の収支差額を見ると、2016および2020年度を除いた3年度で目標を達成している。また、過去5年度の収支差額の合計が32,450千円となり、黒字経営となっていることから、収支の状況は「ほ

ば適切」であると自己評価した。

収支差額の“マイナス”については、2016年度はvetOSCE試験対応のための施設改修を実施したため、例年にはない修繕費が発生した。2020年度は獣医師の減員およびコロナ禍での診療制限による減収となったことが要因である。

項目5 安全管理

評価内容	自己評価
5-1 学生の安全を確保する取り組みを行っているか	④・3・2・1
5-2 作業者の安全を確保する取り組みを行っているか	④・3・2・1
5-3 防疫管理は適切か	④・3・2・1

5-1 学生の安全を確保する取り組みを行っているか

自己評価 4（適切）

マニュアルを制定し、ガイダンス等で周知を行っている。

AMC危機管理マニュアル

【資料7 附属動物医療センター危機管理マニュアル】

防疫マニュアル

【資料8 附属動物医療センター生産動物分野防疫マニュアル】

AMC危機管理マニュアルは自然災害発生時の対応策、防疫マニュアルは人獣共通感染症を予防するための対応策を具体的に示しており、学生自身の防災あるいは防疫に対する意識付けを強化する。

学生が実習に参加する前には、ガイダンスを行い、注意事項を徹底している。

放射線を使用する診療に係る学生には講習会を実施している。

破傷風の予防接種を推奨している。

新型コロナウイルス感染対策として、入館退館時に名簿に記載することを義務付け、センター内の各所に手指消毒剤及び体温計を設置している。

5-2 作業者の安全を確保する取り組みを行っているか

自己評価 4（適切）

マニュアルを制定し、ガイダンス等で周知を行っている。

AMC危機管理マニュアル

【資料7 附属動物医療センター危機管理マニュアル】

防疫マニュアル

【資料8 附属動物医療センター生産動物分野防疫マニュアル】

AMC危機管理マニュアルは自然災害発生時の対応策、防疫マニュアルは人獣共通感染症を予防するための対応策を具体的に示しており、教職員自身の防災あるいは防疫に対する意識付けを強化する。

放射線を使用する診療に係る教職員には講習会を実施している。

咬傷事故等の労災については、年度初めの全体会議や毎週行われている各分野会議において注意喚起を行っている。

新型コロナウイルス感染対策として、センター内の各所に手指消毒剤及び体温計を設置している。

5－3 防疫管理は適切か

自己評価 4（適切）

マニュアルを制定し、適切に管理を行っている。

生産動物部門は防疫マニュアル（資料8 附属動物医療センター生産動物分野防疫マニュアル）に基づき、特に指定伝染病（法定ならびに届出伝染病）の持ち込みあるいはまん延を防ぐための注意点について徹底している。

センター内における診療区域とそれ以外の区域のゾーニングも検討中である。

項目6 利活用状況

評価内容	自己評価
6-1 教育への活用状況はどうか	④・3・2・1
6-2 研究への活用状況はどうか	④・3・2・1
6-3 教育研究成果は社会還元されているか	④・3・2・1

6-1 教育への活用状況はどうか

自己評価 4 (適切)

建学の精神と教育理念に基づく実学教育の推進・強化を目的として以下の教育活動に活用している。

(1) 学生教育

- ① 健土健民・獣医学入門実習 獣医学類および獣医保健看護学類 1 年生（約200名） 1 単位

獣医学類 1 年生約130名、獣医保健看護学類1年生約65名を一班30名程度で 6 班に班分けする。4 月中旬から隔週で、週一回、13時から17時にかけてAMCの見学やAMC内での伴侶動物医療に関する実技実習を実施する（合計 6 日間実習に使用する）。

- ② クリニカルローテーション 獣医学類 5 年生（約130名） 3 単位

獣医学類 5 年生全員が実習を行う。

3 単位のうち、2 単位は伴侶部門、1 単位は生産部門が担当している。

・伴侶部門：実施期間は通常 5 年前期であるが、COVID-19感染症の三密防止対策により、2020および2021年度は、4 月中旬から12月中旬までを 5 期（1 期は 5 週間）に分け、1 期あたり 25-30名の学生が参加する。

この25-30名をさらに 4 つのグループに分け、①伴侶動物外科、②伴侶動物内科、③麻酔・集中治療科、④画像診断科の 4 診療科を 1 週間（水-金の 3 日）ずつローテーションする。

・生産部門：生産部門は 4 月中旬から夏季休業前まで実施している。COVID-19感染症の三密防止対策に留意しながら、往診などに随同行している。実習内容としては診療科を分けることなく、一次診療、病院内での二次診療、また外部での検診の随行に参加し、1 週間（3 日）ローテーションする。

- ③ 生産動物医療クリニカルローテーション 獣医学類 5 年生（約20名） 5 単位

対象は獣医学類 5 年生であり、約20名を一班 1 名程度に班分けする。実施期間は 9 月から12月にかけてであり、9 時から17時までが実習時間である。学生は、往診随行による一次診療、繁殖や蹄疾患の管理に係わる検診、難治性疾患を発症した症例を外科や内科にて担当し入院診療に携わるなど、実習する。

④ 伴侶動物医療クリニカルローテーション 獣医学類 5 年生（約30名） 5 単位

専修コースとして伴侶動物医療学分野を選択した学生の必修科目である。指導教員により各人に与えられた研究テーマ（卒業研究）とAMCの診療実習からなる。

⑤ 生産動物医療アドバンスドコース 獣医学類 6 年生（約20名） 5 単位

専修コースとして生産動物医療学分野を選択した学生の必修科目である。指導教員により各人に与えられた生産動物の診療に係わる研究テーマ（卒業研究）やAMCの診療実習からなる。

⑥ 伴侶動物医療アドバンスドコース 獣医学類 6 年生（約30名） 5 単位

専修コースとして伴侶動物医療学分野を選択した学生の必修科目である。指導教員により各人に与えられた研究テーマ（卒業研究）とAMCの診療実習からなる。

⑦ 病院実習専修コース 獣医学類5年生または6年生（約10名） 1 単位

選択科目であり、希望する獣医学類 5 年生（後期）または獣医学類 6 年生（前期）が、伴侶動物外科、伴侶動物内科、麻酔・集中治療科、画像診断科の中から希望する 2 診療科で 1 週間ずつ、または 1 診療科で 2 週間診療に参加する。本実習では、月曜日から金曜日の 5 日間、9 時から 17 時までが実習時間である。例年 10 名程度が参加している。

⑧ 総合臨床実習 A 獣医保健看護学類 3 年生（約65名） 2 単位

対象は獣医保健看護学類の 3 年生であり、約65名を一班 2 ～ 4 名程度に班分けする。実施期間は 8 月中旬から 9 月上旬にかけて月曜日から金曜日の 9 時から 17 時までが実習時間である。学生は伴侶動物外科（Ⅰ、Ⅱ）、伴侶動物内科、麻酔・集中治療科、画像診断科、リハビリ科、伴侶動物看護部門、生産動物看護部門生産往診、薬剤部の中から 3 ～ 4 の診療科を選び実習を行う。

⑨ 家畜衛生学実験 循環農学類 3 年生（約140名） 1 単位

循環農学類の 3 年生を対象とし、学生見学を受け入れる。一班10～15名程度に班分けする。実施期間は 5 月～ 6 月の 2 日間。14時40分～17時に実施している。

⑩ VetOSCE本試験および追試験 獣医学類 4 年生（約130名）

獣医学類 4 年生を対象とし、クリニカルローテーションの参加するための必要条件であるステューデントドクター（仮免許に相当する）を取得するための全国の獣医大学で共通の実技試験である。酪農学園大学では、2 月中旬から下旬に 1 日かけて試験を実施する。また、追試験が必要となった場合には、3 月中旬から下旬に 1 日かけて試験を実施する。実技試験は、「伴侶動物身体検査」、「外科手

技」、「産業動物身体検査」、および「医療面接」の4つの試験から構成される。

(2) 卒後教育

⑪ 病院獣医師の教育

2021年度は8名の病院獣医師（内科3名、腫瘍科1名、神経科1名、画像診断科1名、全科ローテーション1名、生産1名）が在籍している。各診療科所属の臨床教員が専門分野の知識および技術を直接指導することで病院獣医師の卒後教育を実施している。

⑫ 卒後教育セミナー

2020年3月以降の約2年間にわたり、コロナ禍のため対面での卒後教育セミナーは実施出来ていない。2021年4月より本学卒業生が構成員である「麦の会」の会員を対象にwebセミナーの実施を開始した。2022年1月現在までに、4回のセミナーを開催している（1 伴侶動物内科 大田准教授、2 伴侶動物内科 山崎准教授、3 麻酔・集中治療科 伊丹准教授、4 生化学教室 岩野教授）

6-2 研究への活用状況はどうか

自己評価 4（適切）

研究で得られた成果は、然るべき方法で公表している。

教員の研究業績状況

【資料9 2016～2020年度医療センター教員業績】

二次診療施設の特徴を活かした研究活動は、学内および学外の研究者との共同研究や受託研究も含め積極的に取り組み、得られた成果を公表し、基礎と臨床の両面から獣医学発展に貢献する。

伴侶動物および生産動物とも、臨床試験ガイドライン（検討中）に則り研究を行う。特に、アニマル・ウェルフェアには十分に考慮する。

6-3 教育研究成果は社会還元されているか

自己評価 4（適切）

研究及び臨床試験で得られた成果は、主にセミナーで公表している。

セミナー開催状況

【資料10 附属動物医療センターセミナー開催状況】